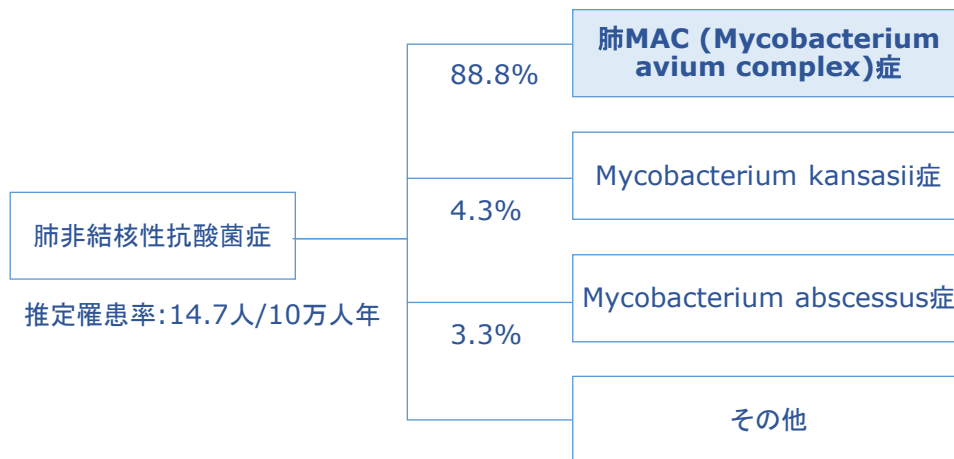


肺MAC症 (Mycobacterium avium complex (MAC) lung disease)

- 肺MAC (Mycobacterium avium complex)症とは、Mycobacterium avium又はMycobacterium intracellulareを主な感染菌種とする肺非結核性抗酸菌症の一種であり、日本の非結核性抗酸菌による肺感染症のうち 8～9割は肺MAC症である(図1)。
- 日本の治療ガイドラインに相当する「肺非結核性抗酸菌症化学療法に関する見解—2012年改訂」ではリファンピシン、エタンブトール、クラリスロマイシンの3薬剤による多剤併用療法が基本とされている。(表1)
- アリケイスは6ヵ月以上の多剤併用療法で菌陰性化を達成しなかった肺MAC症患者に対して、多剤併用療法に上乗せで投与される。

図1:肺非結核性抗酸菌症と肺MAC症について



倉島ら(2015)より作成

表1:肺MAC症に対する多剤併用療法

薬剤	用法用量
リファンピシン	10mg/kg/日 1日1回
エタンブトール	15mg/kg/日 1日1回
クラリスロマイシン	15~20mg/kg/日 1日1-2回

「肺非結核性抗酸菌症化学療法に関する見解—2012年改訂」より作成